

## 静脈物流のイノベーション創出にむけて

京都工業会環境委員会委員長（平成29～30年）  
株式会社 島津製作所 環境経営統括室  
三ツ松 昭彦

近年、企業価値を評価する大きな側面として「SDGs達成に寄与する企業活動」や「ESG経営の推進」がクローズアップされている。SDGsやESGに取り組まない企業は淘汰される時代へ急激に変化している。なかでも「環境」に関連する事項はその傾向が顕著である。気候変動問題の解決や循環型社会の形成といったグローバル規模での環境課題の解決にはある種の「イノベーション」が必要であり、京都の各企業もイノベーション創出に向けた研究開発を急いでいる。

昨年度、京都府で実施された「IoT・スマート産業廃棄物削減対策事業」は、まさに静脈物流のイノベーションである。同事業は民が開発したIoT技術を公のシステムに採用したもので、リサイクルの促進が期待できるとともに廃棄物運搬車両の効率運行によるCO2排出量削減への効果も期待できる。

今後EUを中心にサーキュラー・エコノミー（循環型経済）への転換が加速されるなか、企業もその流れを無視するわけにはいかない。サーキュラー・エコノミーの大きな柱の一つであるリサイクル推進には効率的な廃棄物回収が不可欠である。京都府が試みた静脈物流のイノベーションのようなシステムを我々企業が積極的に採用することでSDGs達成への貢献になり、その結果として京都企業の価値向上につながる。

京都企業の一員として京都府の今回の取組みが発展し、より多くの企業が導入、普及することを願ってやまない。